

トランプ政権の国防政策

平成29年2月10日

沖縄担当大使

冷戦後の米国国防政策の推移

90年代の国防政策

背景:

- ・ソ連邦との大規模戦争の可能性の低下, 地域紛争の拡大, テロ・大量破壊兵器の拡散などの脅威の多様化
- ・「平和の配当」として, 米軍の縮小・削減を求める世論, 議会の政治的要請の高まり

政策:

ブッシュ(父)政権(89~93), クリントン政権(93~01)と政権交代が行われる中で, 三回にわたり国防政策を見直し; 基礎戦力(Basic Forces)構想(91), ボトムアップ・レビュー(93), 四年ごとの国防計画の見直し(QDR97)

→ 基本的には, **兵力・国防予算の削減に主眼**

9. 11後の国防政策

— G.W.ブッシュ政権(01～09)の政策 —

背景:

2001年9月の同時多発テロは、真珠湾攻撃以来の米
国本土攻撃であり、国防方針に関する根本的な変革
を迫る

政策:

01年10月にQDR2001を発表し、ラムスフェルド国防
長官の下で、国防政策と軍事力の「トランスフォーメー
ション(変革)」が開始

→ 国防予算削減の方向性の修正と国土防衛(国土
安全保障局の設置)・非対称戦への対応の必要
性を強調



ブッシュ政権におけるテロとの戦い

アフガニスタン紛争(2001年10月～現在)

- ・9.11の翌日, 安保理決議は, テロ攻撃を「国際の平和と安全に対する脅威」と見なし, 集団的自衛権を認める
- ・ウサマ・ビン・ラーデンを引き渡さないタリバーン政権に対し, 有志連合は「不朽の自由作戦」を開始
 - 我が国は, テロ特措法により洋上補給

イラク戦争(2003年3月～2011年12月)

- 有志連合は, イラクの武装解除義務違反を理由に「イラクの自由作戦」を開始
 - 我が国は, イラク特措法により, サマワに陸上自衛隊派遣



オバマ政権(09~17)の国防政策

背景:

- ・アフガニスタン紛争・イラク戦争の長期化とともに、ブッシュ政権の一国行動主義に対する反米感情の世界的な広がり
と米国の国家的な威信の低下
- ・国内における厭戦気運の高まりと財政負担の急増

政策:

- ・ブッシュ政権から引き継いだテロ作戦の勝利を優先しつつも、厭戦気運の国内世論や財政負担を考慮し、テロ作戦をできる限り早期に終結させて、経済の再生を図る。
- ・ブッシュ政権の一国行動主義をやめ、海外に展開するハードパワー(軍事力)を削減し、同盟国・友好国との関係を強化し、スマートパワーによる外交・安全保障政策を展開

新国防戦略「米国のグローバルリーダーシップ確保—21世紀における国防の優先課題」(2012年1月)

- 米国の安全保障戦略の重点をアジア太平洋地域に置く
- イラク及びアフガニスタンからの米軍の撤収を目指し、また財政赤字が深刻化する中で国防予算の削減が求められていることを踏まえ、国防上の優先順位を見直し

(予算削減義務)

- 2011年8月予算管理法が成立し、21会計年度までに政府歳出を大幅に削減することを規定。
- これを受け、2012年1月、国防省は12会計年度から21会計年度までの10年間で国防歳出を4870億ドル削減する旨発表。

オバマ政権最後の時点における国防政策

→トランプ政権においてどうなるのか？

安全保障・脅威認識

短期的脅威(当面の敵): イスラム国(ISIL)やアルカイダなどのテロ・暴力的過激主義組織

中長期的脅威: 既存の国際秩序や米国及び同盟国の利益を脅かす国家(「修正主義国家」)であるロシア, 中国, 北朝鮮, イラン

重点政策

(1) アジア太平洋地域

同地域を重視し, リバランスの推進。中国の南シナ海における埋立てや軍事拠点構築, 軍事利用に対し, 「航行の自由作戦」を継続

(2) テロ

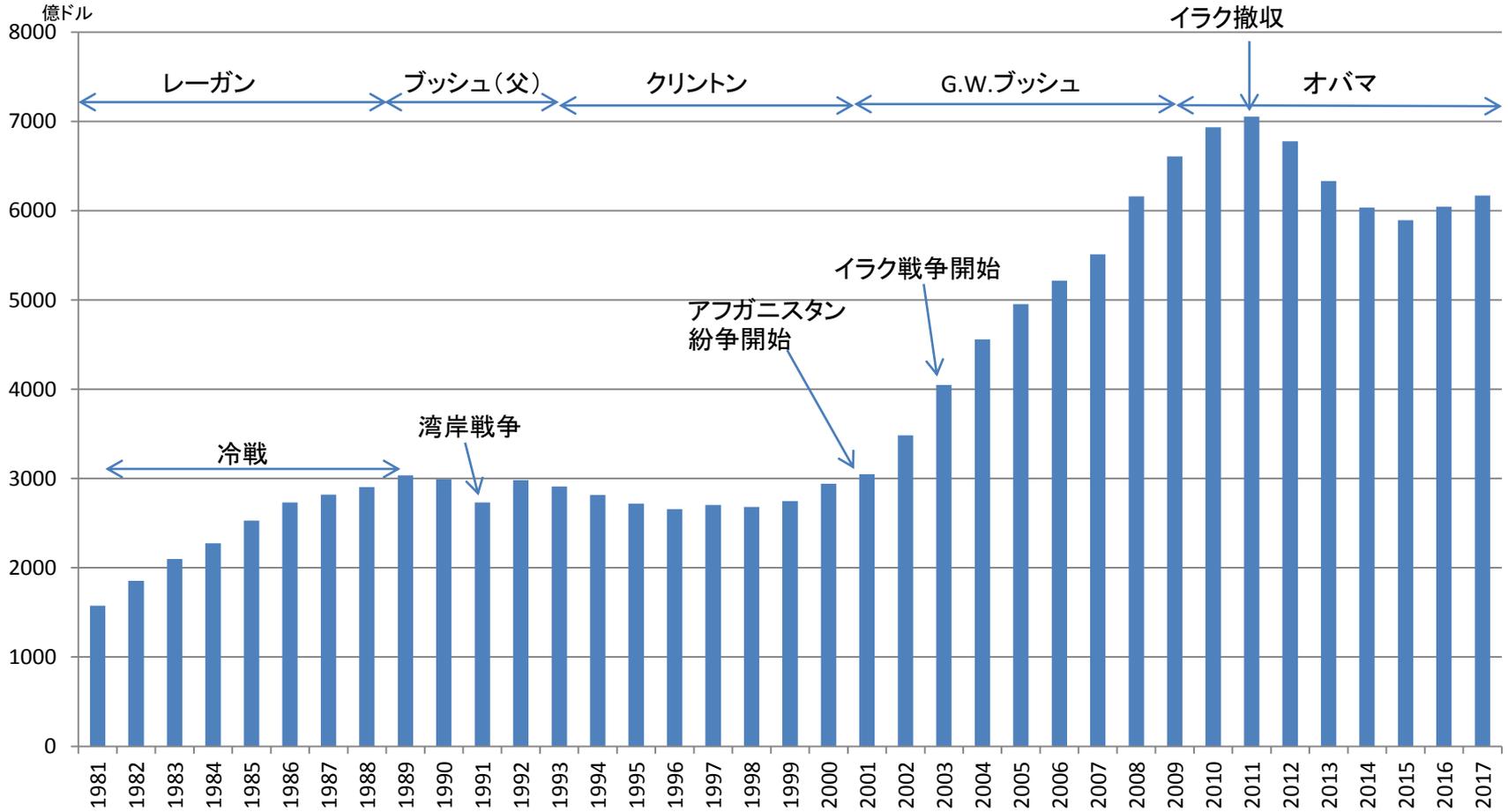
・2014年8月以降, 空爆をはじめとする対ISIL軍事作戦, 「固有の決意作戦(Operation Inherent Resolve)」を実施

・アフガニスタンに対しては, 16年末までに撤収予定であった計画を見直し, 同年中は現在の9800人を維持し, 2017年以降も5500人を駐留させる方針

(3) 欧州

ロシアの介入によるウクライナ情勢の悪化, 大量の難民流入に直面している欧州に対し, 「欧州再保証イニシアティブ」を実施。関連予算は17年度において, 前年度4倍の約34億ドル。

米国国防予算の推移



国際テロ情勢

—イスラム国(ISIL)とは—

- 2003年3月, イラク戦争開始
フセイン打倒後の政治的混乱に乗じ, 多数のアルカイダ系テロリストが潜入
- 2006年10月, イラクのイスラム国(ISI)設立
- ISIは米・イラク軍の前に弱体化
- **2011年12月24日, 米軍完全撤収**
- アブー・バクル・アル・バグダーディ(2010年5月より指導者)は, 元バアス党将校を幹部に就けて, ISIの立て直しを図る
- 2011年にアラブの春がシリアに波及した機に乗じて, シリアに進出
- 2013年4月, ISIL(イラクとレバントのイスラム国)設立を宣言
- 2014年6月, イラク第二の都市モスル制圧, 「**イスラム国(IS)**」に名称を変更し, 世界カリフ制を宣言し, バグダーディはカリフを名乗る



イスラム国 (ISIL) の特徴

1. 領域支配をし、イスラム国という「疑似国家」を設立
2. 欧米諸国の若者が外国人戦闘員として参加
3. インターネットの巧みな利用



オバマ政権の対応

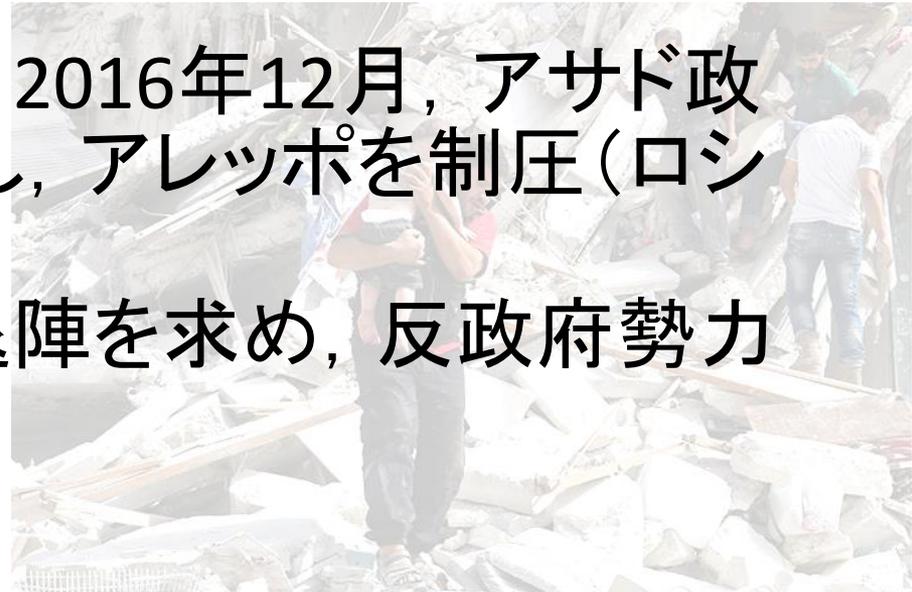
・2014年8月，米軍と有志連合は，イラクのISILに対し空爆を開始

同年9月，シリアのISILに対し空爆を開始

現在，米軍の支援の下，イラク軍とクルド人部隊（ペシュメルガ）によるモスル奪回作戦が展開中

・他方，シリアにおいては，2016年12月，アサド政権は，反政府勢力を撃退し，アレッポを制圧（ロシア，イランが支援）

オバマ政権は，アサドの退陣を求め，反政府勢力を支援



トランプ政権の国防政策はどうか？

新閣僚の顔ぶれ

★ 元軍人

国務長官: レックス・ティラーソン(64)

エクソンモービル会長。石油事業を通じプーチン大統領他各国指導者
者
と人脈

国防長官: ジェームズ・マティス(66) ★

軍歴44年の元海兵隊大将(元中央軍司令官)。湾岸戦争, アフガン紛争, イラク戦争で戦闘指揮。あだ名は「狂犬」。72年に沖縄で訓練。

国土安全保障長官: ジョン・ケリー(66) ★

軍歴45年の元海兵隊大将(元米南方軍司令官)。イラク戦争で戦闘指揮。メキシコ国境警備強化を主張

安全保障担当大統領補佐官: マイケル・フリン(58) ★

元国防情報局(DIA)局長。軍歴33年の元陸軍中將。情報専門家としてイラク, アフガンでの対テロ作戦参加。

中央情報局(CIA)長官: マイク・ポンペオ(53) ★

下院議員。陸軍士官学校出身。反オバマの茶会党運動で下院当選。

トランプ大統領の言動

就任演説

- ・他の国の軍隊を支援する一方で、我々の軍を犠牲^(注1)
- ・古い同盟関係を強化し^(注2)、新たな同盟を作る。
過激なイスラム・テロを根絶

(注1) 就任前に、日本や欧州に財政負担増を求める発言

(注2) 就任前に、NATOは時代遅れとの発言

英首相との会談、独・仏との電話会談

NATOの重要性確認

ロシアとの電話会談

対テロ対策の協力を確認

米軍の増強を求める大統領令に署名

日本との関係

1月28日, 日米首脳電話会談

日米同盟の重要性を確認

2月10日の首脳会談？

2月3, 4日 マティス国防長官の訪日

最初の外国訪問に日本・韓国を選択

→ アジア・太平洋重視の姿勢の表れ

- ・日米同盟の重要性を確認
- ・北朝鮮の核開発は容認できず
- ・尖閣諸島は安保条約の対象
- ・辺野古移設が唯一の解決策を確認
- ・経費負担につき日本はお手本